

## 事業報告書（令和 3 年度）

事業名 高校生・企業協働フードロス削減プロジェクト

団体名 岡山高等学校 担当者名 林 秀俊

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

8月10日（火）10:30～11:30、オンラインで学童保育児童対象フードロス削減イベント「やめられない？とまらない？やめなきゃいけないフードロス！」を実施。全国より21施設（うち岡山県内5施設）、1116名（同県内346名）の児童が参加。岡山高等学校会議室より配信を行い、岡山一宮高等学校・就実高等学校・岡山高等学校グループが配信会場より各校の探究学習で学んだことを活かしながら参加児童にフードロス削減啓発を行い、岡山後楽館高等学校グループは自校調理室から接続してロス食材を使用した調理実演を行った。岡山県学童保育連絡協議会・フードバンク岡山・株式会社ウィライツの協力で高校生の事前学習（4～7月に実施）を行い、カルビー株式会社からは当日教材として参加児童数分の菓子小袋提供を頂いた。



（8月10日オンライン配信会場）

（8月10日オンライン配信画面）

11月6日（土）14:15～17:00、オンラインで8月イベント成果報告会を実施。主に岡山県内から25名が参加。参加校の取り組み報告とアンケート結果共有後、フードバンク岡山理事長の糸山智栄氏からの講演、映画『0円キッチン』上映を行った。コロナ禍の影響で8月イベント時に参加できなかったおかやまJKnote、食糧問題に取り組む高校生を対象としたプレゼンテーション大会を主催する創志学園高等学校も新たに参加し、発表を行った。



(11月6日オンライン配信会場)

(11月6日オンライン配信画面)

12月19日(日)、岡山コンベンションセンターで岡山市民対象の成果報告会兼映画『もったいないキッチン』上映会を実施。主に岡山市内から53名が参加。8月イベントの成果報告とともに、全農おかやま・パールライス岡山から「瀬戸内かきがらアグリ」の取り組み紹介、コノヒトカンプロジェクトからロス食材を使用した缶詰製造と寄附の取り組み紹介を行った。会場では岡山高等学校グループが探究学習の中で「瀬戸内かきがらアグリ」と協働で栽培・製品化した里海米「ツバサクラ」とコノヒトカンプロジェクトの缶詰をセットにしたチャリティー販売を行い、エシカルな消費行動を訴えた。



(12月19日成果報告会)

(12月19日チャリティー販売)

## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

複数高校の生徒が協働し、オンラインも活用しながら、県内で食の分野から持続可能な社会作りに取り組んでいる企業・団体とつながり、課題の所在や課題解決に向けた実践について学ぶ機会を多く設けることで、多様な他者とかかわり、持続可能な社会の形成者に必要な、社会課題に対して多面的・総合的に考える態度や、円滑にコミュニケーションを行う力の育成を目指した。

イベント時には行動宣言シートの作成を行い、成果発表時にはフードロスをテーマにした映画の同時上映やチャリティー販売会を同時に行うことで、参加の児童や市民に対しても学びを行動につなげる機会を提供するとともに、課題について提示された複数の視点が批



判的な思考を行うための材料となり、企画実施の高校生だけでなく参加者一人ひとりが持続可能な社会構築のために行動できる能力や態度を身につけることができるように事業を見直した。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

8月オンラインイベント終了時には、参加児童それぞれが行動宣言シートを作成し、施設代表児童による行動宣言紹介を行うことで、家庭・学校・施設での食事やおやつのおけるロス削減への意識を高めることができた。アンケートからは、イベント実施以降、施設での喫食時の行動や発言における児童の変化も確認することができた。

11月と12月に行った成果報告会では、事業開始時には想定していなかった高校や企業・団体とのつながりも生まれ、それぞれの取り組みを公開するとともにより広範囲での協働のきっかけとすることができた。

12月の報告会会場でチャリティー販売会を行うことで、参加者に対して情報の提供にとどまらずエンカルの消費行動を実際に体験する機会を提供することができた。

事業を通して、参加各校の生徒教員と協力団体をつなぐことで、同じSDGs目標の達成に向けた複数学校による協働の先行事例とすることができた。

### 4. 今後の課題と展望

今年度の一連の活動はメディア等を通して広く知ってもらうことができた。2022年2月27日（日）に「食品ロス」をテーマに行われた山陽新聞社連続シンポジウム「SDGs 地域課題を探る」第1回および会に先立ち2月16日（水）に行われたオンラインでの公開論点整理イベントには岡山高校・一宮高校・コノヒトカンプロジェクトが参加して県内で活動を行う各種団体との意見交換を行うとともにフードロス削減を実現するための課題を共有し、次年度以降の連携のきっかけを作ることができた。

年度単位での事業としては成果をあげることができたが、高校生の探究活動では1年ごとに取り組む生徒、テーマともに変化することになる。学校によっては探究活動担当教員の異動も想定される。今年度のつながりをもとに、新たな年度を迎えたときにスムーズに複数校での協働を開始できる連携体制を構築し、企業・団体とのネットワークを良好に保つために、複数年度を見通した計画と、協働のプラットフォーム作りに取り組む必要がある。